

海洋通信技術（授業風景）：3年電気通信類型（水産科）

海洋通信技術とは、モールス符号（信号）による音響通信です。短点の「トン」と、長音の「ツー」の組み合わせで構成されています。例イ：・ーとなります。（欧文では、Aとなります。）また、船の上では、音ではなく光で通信を行うこともあり、これは発光信号といわれるものです。符号の意味については、音響信号も発光信号も同じです。

この科目は、無線従事者国家資格の【第三級総合無線通信士】の受験科目でもある「電気通信術」という実技科目になります。

総務省が所管するこの第三級総合無線通信士は、5科目【無線工学の基礎、無線工学、法規、英語及び電気通信術】で構成されており、本校を卒業すれば、5科目のうち3科目【無線工学の基礎、英語及び電気通信術（本授業）】が免除となり、無線工学及び法規の2科目に合格すれば国家資格を取得することができます。

3年電気通信類型の生徒は、すでに全員が工学と法規の合格を果たしています。後は卒業後に総務省へ申請すれば無線従事者免許証が届くこととなります！晴れて国家資格保持者となります。



全体風景：生徒（1名）が送信し、残り生徒は受信（聞き取り）を行います。1名は、ホワイトボードに記入します。



受信する生徒のうち1名は、前方のホワイトボードに記入します。



和文（日本語）だけではなく、欧文もあります。欧文は、「暗語」と「普通語」の2種類あります。生徒はそれぞれ切り替えながら受信しています。



専用の受信紙（和文）の決められた箇所へ聴守（聞いた）内容を記入していきます。



今は一生懸命耳を澄まし、音を聞いて必死に受信しています。しかし慣れてくると、言葉となって聞こえるようになります。